

# 所沢市立学校学期制検討委員会

<まとめ>



平成26年4月

所沢市立学校学期制検討委員会

## はじめに

所沢市では、平成16年度より、市立小・中学校、市立幼稚園が二学期制を採用し、様々な課題を解決しながら、各学校・園が創意工夫を凝らした教育課程を編成して特色ある学校(園)づくりに努めてきた。この間、「二学期制の検証」を求める声を受け、教育委員会では二学期制検証アンケートや、「学び改善プロジェクト推進委員会」等を通して二学期制の検討を行うとともに、各学校(園)においては課題を解決しながら、本市の子どもたちの健やかな成長を願って教育を推進してきたところである。

この所沢市立学校学期制検討委員会は、所沢市教育の更なる発展・充実のために次のような経緯で開催された。

平成25年7月、定例教育委員会会議において所沢市立小・中学校及び幼稚園の学期制についての再考が促された。その後、同会議において、学期制については「新たな枠組みで研究する」との方向性が打ち出されると共に、「新たな枠組みについての検討委員会」の開催が示唆された。これを受け、教育委員会事務局内では「教育課程の新しい枠組みを考えるプロジェクト会議」が立ち上がり、計6回の会議が開催され、結果報告書が作成された。本委員会は、このプロジェクト会議で検討された「新たな三学期制」への移行を前提に、教育委員会より委嘱を受けた学識経験者や保護者、学校関係者、教育行政関係者で構成され開催されたものである。

合計で3回開催された委員会の内容は、次項より詳しく述べられているので参照いただきたい。

教育委員会事務局からは、「二学期制のよさと、三学期制のよさが生かされる新たな枠組みとしての学期制のメリット」の概略が説明された。しかしながら、次頁からの報告でも読み取れるように、「新たな三学期制」を推進する事務局側の案を、出席した学校のリーダーである校長をはじめ、同じく出席した教職員からも移行の検討期間や開始時期に納得したとは言い難い意見があった。また、学校や教育委員会事務局関係者以外の出席者からも実施への課題が述べられたという事実も残る。

したがって今後の「新たな三学期制」への取組は、本まとめの「おわりに」でも述べられているように、課題を「ひとつひとつ丁寧にクリアーしていく」ことが必要であろう。

何よりも「子どもたちの幸せ」をより一層実現できる「新たな三学期制」構築に、関係者の相互理解と善処を切に希望する。

本まとめは、3回にわたる検討委員会の内容について出席者の意見を集約し、その主旨を報告するものである。

文責：高橋 敏



# 第 1 回 委員会概要 ( 1 月 2 4 日 )

## 事務局より

「学期制の経緯について」と「今後の取組について」説明。

## 事務局説明要旨

- ・平成 2 5 年度所沢市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書についての昨年 8 月の定例教育委員会会議の審議の中で教育課程の新しい枠組みについて研究していくことが示された。
- ・併せて検討委員会を作り、学期制について検討するよう教育委員会より指示があった。こうしたことから、まずは事務局職員で「教育課程の新しい枠組みを考えるプロジェクト会議(以下、プロジェクト会議)」を組織し、教育課程の新しい枠組みを研究するに当たり課題となることを検討したものである。このプロジェクト会議は 6 回の会議を行い、授業時数の確保や評定の時期等、三学期制に移行するに当たり課題となることや移行のスケジュール、今後行う予定の検討委員会について検討してきた。

## これまでの経緯とこれからの方向性

所沢市では二学期制導入から今年で 1 0 年となり、各学校では二学期制のよさを生かした教育活動が進められている。一方、教職員や保護者からは三学期制の復活を望む声もあり、県内では二学期制を実施する学校は少なく二学期制は市民のコンセンサスを得にくいとの指摘もある。また、現市長は三学期制を公約としている。

こうした中、平成 2 5 年 1 月の教育委員会会議では「平成 2 5 年度以降の学期制および教育課程の編成については現行どおりとする」ということが示された。また、小学校では平成 2 3 年度から、中学校では平成 2 4 年度から新しい学習指導要領が施行され、つまずき易い内容の確実な習得を図るための繰り返しの学習と知識や技能を活用する学習の充実が求められている。

この、知識や技能を活用する学習の充実を図るには、比較的長いスパンの学習が大切である。また、基礎的学力をしっかりと身につけるため繰り返し学習をしっかりと行い内容の確実な定着を図るには短いスパンで取組を行うことが効果的である。そのためには、これまで行ってきた二学期制のよさを生かしながら、子どもたちの生きる力を育む新しい枠組みについて考えていく必要がある。

こうした背景の中で、教育委員会の体制も変わり、昨年 8 月の教育委員会会議において、教育課程の新しい枠組みについて研究していくことが示された。

## 平成 2 5 年度埼玉県小・中学校学習状況調査から見た市内児童生徒の状況

平成 2 5 年度の埼玉県小・中学校学習状況調査の分析結果を見ると、本市には、基礎的基本的な知識及び技能の定着が十分でない児童生徒もあり、課題改善を図ることが必要であることが改めてわかった。この課題を解決するために、より短いスパンで目標設定することで、基礎的基本的な知識及び技能をより確実に身につけ、思考力判断力表現力等の育成につながれると考える。同じように評定についても短いスパンで示して児童生徒が自己の学習を振り返り反復して力をつけていくことの有効性を研究していくことも必要である。

また、中学校では二学期制においては 7 月に三者面談等を行い、学力の振り返りを行ってき

た学校も多くあるが、より夏季休業を有効に活用するためには夏季休業の前に評価を受けた方が保護者と一体となって計画を立てやすいのではないかと判断された。こうしたことから、新たな枠組みの検討が必要と考えた。

### 新たな枠組みとしての三学期制

新たな三学期制を導入することで、児童生徒一人一人の評価評定の回数を教科により増やしてみることで、より多面的多角的に各自の学習状況に応じた指導や助言をすることもできるであろう。これにより、子どもたち自身がこれまで以上に見通しをもって目標を設定し学習計画を立てられるようになる。小学校においては単元毎のまとめりで評価を積み重ねていくシステムが定着しているが、短いスパンで評価を組み合わせることで児童の学習における弱点をより明確にすることができる。中学校においては7月や9月の猛暑の時期に定期テストを行わない選択肢も生まれる。また成績処理の事務処理負担もコンピュータシステムの活用により軽減することができると考えた。

### 二学期制のよさを取り入れた教育課程の考案

二学期制に比べて授業時数が少なくなることを補う方法としていくつかの方法が考えられるが、例えば冬季休業を1日短くして1月7日から三学期を開始するとともに半日の土曜授業を年4回実施することにより減少分をほぼ補うことができ、また教職員の勤務についても夏休み等長期休業時の振替で対応できると考えた。

また、学校行事も二学期制のよさを生かして新たな三学期制に組み入れていく必要がある。評価評定の区切りについても変わるが、教科によって学期毎または前期後期で評価評定を示すことも考えられる。さらに、中学校では定期テストの他にステップアップテストを実施する。また、小学校6年生と中学校3年生で全国学力・学習状況調査、小学校5年生と中学校2年生で埼玉県小中学校学習状況調査が行われ、これらを組み合わせることで、より多面的・多角的な学力の分析が可能になる。このような事例をもとに各学校で工夫していただき、学校の主体性を生かした新たな教育課程の編成が期待できると考えた。

### 三学期制移行のスケジュール

プロジェクト会議では3つの案を示して、メリット・デメリットをまとめた。案1は全校で平成26年度から三学期制を実施するものだが実施するまでの期間が短く理解が得にくいものとする。案2は学校の状況により移行時期を平成26年度か平成27年度で選択するものだが、これも案1と同様、検討する期間が短くなる。最後に案3だが、こちらは平成27年度から移行するもので、検討や準備に時間を取ることができ、理解は得やすいものとする。校長や教頭からは、準備期間の必要性が指摘されていた。いずれにしても、実施には学校現場の理解と協力が不可欠で実施までには一定の期間が必要と考えているので、事務局としては案3が適当と考えている。

### 仮称学期制検討委員会の設置

新たな三学期制の実施に当たっては教育委員会事務局職員その他、教職員やPTA、有識者等の方々を構成員とする検討委員会を設置して、それぞれの立場から新たな三学期制への移行に求められる諸課題を検討する必要があると考えた。

この会がその検討委員会である。



## 教育行政計画の見直し

新たな三学期制の導入には二学期制の継続を前提としている所沢市教育振興基本計画やその上位計画の所沢市総合計画の見直しが必要である。この見直しを踏まえて教育施策の再構築をしていきたいと考えている。なお、総合計画については昨年の12月議会で改定されている。

## 管理規則の改正

現在学期制については所沢市立小・中学校管理規則により「学年を分けて二学期とする」とありそれぞれの学期の期間が定められている。また、校長は教育委員会の承認を得て学期を変更することができることも定められているが、現在の規則においても定められていることから現在の規則においても三学期制を実施することができる。しかし、学校現場には、学期制は市内統一が望ましいとの声もあり、全校で三学期制を実施しようとするには規則を改正して三学期制とすることを定める必要があると考えている。

## 協議で出た意見

「敢えてこの時期に学期制を変更していくのがどうなのか疑問に感じている」

「プロジェクト会議の中では学期制を変更する際、どの程度期間が必要か検討してきた。他市の例を見ても、学期制の変更を決定してから1年ぐらいであれば、全部ではないにしても何とかできるのではないか、という議論があった。また、10年間二学期制を実施してきたということで、その検証を含めて考えると、変更する時期としてはそれほどおかしなものではない」

「保護者からは脱ゆとりということで授業時数が増えており、三学期制になるとその分時数確保が難しいのではないか」

「保護者の中でも、二学期制・三学期制と様々な意見があるが、先生や保護者など大人たちがうまくいっていないと、子どもが置き去りになることも考えられるので、そのようなことがないように、子どもにとって良い方向に進んでほしいと思う」

「全国の自治体で二学期制から三学期制に戻した自治体もあるようだが、そういう先進自治体のメリット・デメリットなど、成果はどのようにになっているのか」

## 質問事項

Q. 「授業時数の確保」をどのように考えているのか？

A. 第2回の協議で資料を交えて議論いただく。

Q. 二学期制から三学期制に移行した先進自治体の様子は？

A. 資料をもとに回答。



## 第 2 回 委員会概要（2 月 1 9 日）

### 事務局説明要旨

- ・「教育課程の新しい枠組みについて研究していくこと」を踏まえ、本委員会で「新たな枠組み」としている学期制について、「新たな三学期制」として、議論すること。
- ・2月6日の校園長会における教育委員会指示事項の確認。特に新しい枠組みへの移行のための校内準備のお願い。
- ・新たな枠組みの移行について、これまで校長会役員と2回話し合いを持ち、意見を伺いながら、教育委員会事務局では、「教育課程の新しい枠組みを考えるプロジェクト」の示した第3案、若干スケジュール通りではないが、平成27年度からの導入に向けての準備を進めていること。
- ・幼稚園、各小中学校で来年度の校務分掌等の構想を立てていく中で、学期制の移行に対応し、平成27年度に導入できる準備を進める組織の編成を組み込んでいただきたいこと。
- ・中学校区を主として、校内での研究が、小中学校で情報交換が十分に行われ、導入のための組織検討研究が進められるように準備をお願いしたこと。
- ・所沢市教育委員会として、平成27年度からの移行へ向け、所沢市立小・中学校管理規則の変更も踏まえ、学校の教育課程の編成を支援していくこと。
- ・学校学期制検討委員会では、子どもたちが学校で健やかに自己実現をしていけるよう「移行についての考え方」について、議論していただくこと。
- ・第2回委員会の協議内容  
「新たな三学期制」の構築へ向けた、「授業時数の確保」「評価・評定の工夫」「学校行事等年間指導計画」について。

### 協議で出た意見

#### < 総論的なもの >

「教育委員が変わる中、教育に対するいろいろな考え方があり、合議制の執行機関であるという点を踏まえ、その意見を反映してよりよい教育を進めていきたい」

「それぞれの学校が、校長を中心に地域の方の協力を得て、一生懸命取り組んでいて、課題もあるが、実際に成果を上げて、特色ある学校づくりをしていることは、教育委員会でもいろいろな機会に認め評価していただいていると思う」

#### < 「新たな三学期制」に移行するために工夫していく観点について >

「授業時数の不足への対応はどのように考えていくか」

「中学校の定期テストが増えることでの授業時数の確保はどうなるのか」

「具体的に学校において行う教育課程の編成についての説明」

「新しい三学期制だが、いろいろなことを考えると、二学期制の課題を解決しながら進めるのがいいという立場である」

「授業時数については、二学期制を行ってきたいところを工夫しながらやってほしい」

「修学旅行や林間学校など、学校行事の配置を考えると見直しが必要になってくる」

「評価については回数の工夫の話があったが、現実を考えると小学校ではいかなものか」

「通知表の形式もあらたに考えていくことができるのでは」

「来年度1年間の準備期間で、子どもや保護者に対して丁寧に説明していくことが大事である」

## 第3回委員会概要（3月18日）

### 事務局説明要旨

- ・ 前回同様、子どもたちが学校で健やかに自己実現をしていけるよう「移行についての考え方」について議論するよう説明。
- ・ 児童生徒がその時点の学習の到達度を確認できる「通知表」の点について。
- ・ 「教育課程の編成にあたって」ということで、「新たな三学期制」の移行へ向けて、全般的に意見を出してほしいこと。
- ・ 「新たな三学期制とは」リーフレットの説明。

### 協議で出た意見

#### <通知票について>

- 「通知表の考え方については、長期休業前に通知表をもらうことは、学習の振り返りを確認する上では、必要なことである」
- 「5教科と4教科を分けて評定を出すことはいかがか」
- 「3回通知表を出すとなると、教員の事務負担が増え、大変である」
- 「学習指導要領の授業時数で見た時、平成14年度の時数と現在では、大幅に増えている教科がある。その中で、時数が増えていない、子どもの活動を短期間で見られない教科もあるので、教科の特性を考えながら評価していくという考え方もある」
- 「チャンスが3回あるということは、それだけ挽回の機会があるということ」

#### <教育課程の編成にあたって>

- 「今後の検討の中では、教員の研修時間を確保してほしい。大きな変化に呼応していくため、綿密に計画し、合意形成をきちんと図り、共通理解のもとに進めたい」
- 「評議員会で話し合ったが、学期制を変更する必要があるのか。それよりも、環境面を整えていくことが先決ではないのか」
- 「二学期制のよさがなくなってしまうのではなく、どう残していくかが必要である」
- 「授業時数をどのように確保していくか、意見をそれぞれ出すべきである」
- 「保護者の立場としては、学校と教育委員会が対峙しているようで正直不安である。」
- 「二学期でも三学期でもどちらでもできる。モデル校で進めてみるのが自然ではないか」

### 質問事項

Q．二学期制の総括はしてきたのか。

A．2年間にわたり、十分検証を進めてきた。5回にわたる「学び改善プロジェクト委員会」で「二学期制の検証に係る意識調査の概要を踏まえた意見交換」等を実施した。また、東京都墨田区、群馬県高崎市、静岡県藤枝市・掛川市、県内の熊谷市・戸田市・本庄市を視察した。平成22年には、教育委員会によるアンケートを実施して二学期制の現状についてまとめた。その結果、平成25年1月の定例教育委員会で一定の方向性を示したものであり、どちらの学期制にもメリットがあるものである。

## おわりに

本委員会では、所沢市立小・中学校の学期制について、様々な意見を頂戴した。これまでの二学期制を支持する意見、新たな三学期制への移行を支持する意見をそれぞれの立場から、具体的に頂戴した。

新たな三学期制への移行に向けては、メリット・デメリットがあり、ひとつひとつ丁寧にクリアーして、平成27年度に向けて、準備を進めていくことが重要である。この委員会の話し合いは、非常に有意義であり、二学期制が実施され、取り組まれてきたことを踏まえ、それらの継続性を大切にしながら、課題をひとつひとつ整理して、「新たな三学期制」に向けて、学校がより順調に計画を進めていけるよう、この1年間の準備期間を大切にしていきたい。

